

JP.05/019348

24.02.2006

Informal Comments

1. 請求項の補正について

本願の特徴を明確にし引用された文献との差異を明確にするために、2006年2月24日付提出の19条補正書差し替え頁に記載しましたように、

請求項第1項に、請求項第2項の要件を追加補正いたしました。したがって、請求項第2項を削除いたしました。

以下の補正後の請求項1に示しますように、下線部分が追加部分であります。

また、取り消し線が削除部分です。

[1]. (補正後) 基体と、

前記基体の裏面に設けられた接地導体と、

前記基体の表面に設けられ、くり抜き部分を持つ放射導体と、

前記放射導体のくり抜き部分に設けられた接地端子と、

前記接地導体と前記接地端子とに接続された導体と、

前記放射導体に接続されている給電端子と、

を有し、前記接地端子と前記給電端子とをICチップに接続した、前記放射導体と前記給電端子との間にスリットを有するアンテナ装置。

[2] (削除)

2 引用文献と補正後の本発明との差異

本願の請求項1-3、6、9、11ならびに13はご引用文献1により新規性、進歩性のうちの少なくともいずれかが否定されています。

さらに、本願の請求項4と5はご引用文献1-3により進歩性が否定されています。

また、本願の請求項7、8ならびに10はご引用文献1-5により進歩性を否定されています。

また、本願の請求項12はご引用文献1-8によって進歩性が否定されています。

以下、ご引用文献と補正後の本願発明との差異について説明します。

IP・05 / 019748

24.02.2006

ご引用文献1には、放射導体のくりぬき部に半導体モジュールを設けてなる無線タグが開示されていますが、補正後の本願請求項1に示すような構成を有していないために本願に特有な効果を奏することができます。すなわち、ご引用文献1の構成ではインピーダンスの調整には整合回路を新たに設ける必要があります。一方、本願発明におきましては、補正後の請求項1に明らかにしましたように放射導体と給電端子の間にスリットを有しているため、スリット部分が整合回路として動作することになります。つまり、この構成により整合回路が不要となり、効率よく放射導体に電力を供給することができるので、特性の良いアンテナ装置を得ることが可能となるものです。この内容は、明細書4頁、[0012] 1行目～5行目に記載されています。

以上ご説明しましたように、ご引用文献1は、本願の補正後の請求項1の全ての要件を、開示していないのみならず示唆もしていません。さらに、本願特有の効果も開示も示唆もしていません。したがって、本願はご引用文献1に対して新規性のみならず進歩性を有していることは明白であると思料します。

さらに、本願の他の請求項2－13は独立請求項1に従属するものであります。したがって、ご引用文献1が請求項2－13の技術特徴を開示も、示唆もしていないことはいうまでもありません。

さて、本願の請求項4、5、7、8、10および12は、ご引用文献1と、他のご引用文献2－8のいずれかとを組み合わせて進歩性が否定されています。しかしながら、本願の請求項2－13がご引用文献1に対して新規性と進歩性を有する以上、それらがご引用文献1と他のご引用文献2－8の組み合せに対して新規性、進歩性を有することは明白であると思料いたします。